

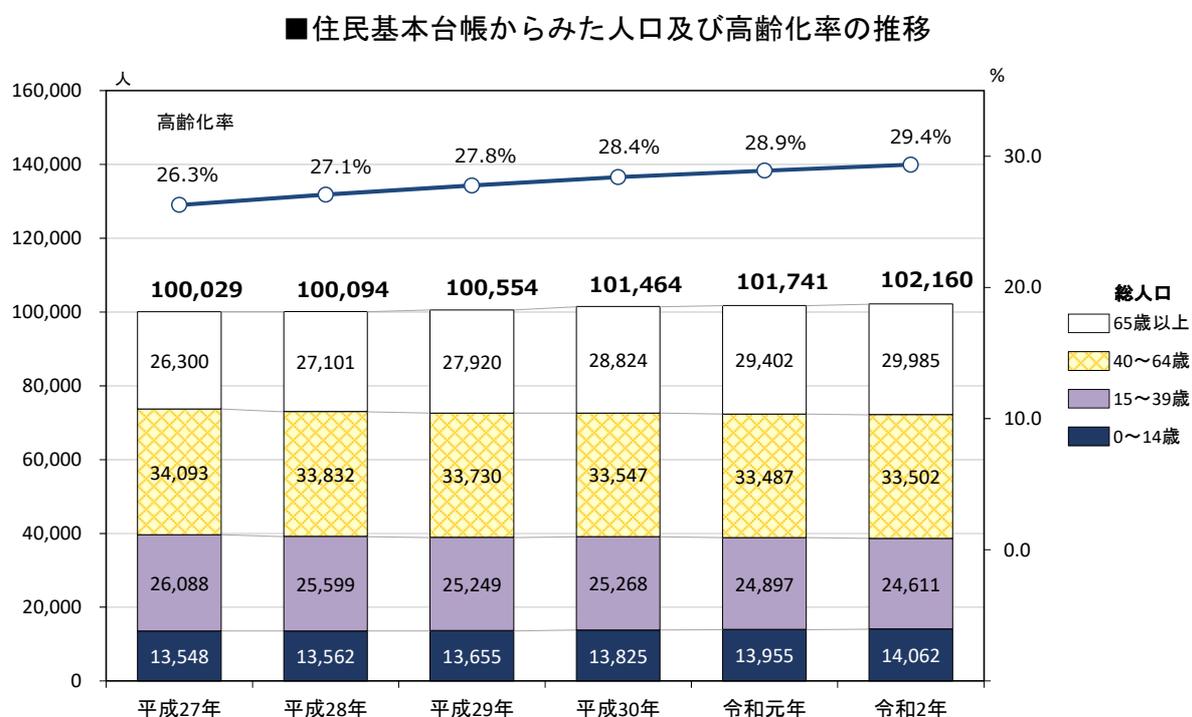
第2章 高齢者を取り巻く現状と課題

1. 人口及び世帯の状況

(1) 人口及び高齢化の推移

平成27年から令和2年までの住民基本台帳人口をみると、本市の総人口は緩やかに増加しています。平成27年から令和2年までの5年間では2,131人、率にして2.1%の増加となっています。

年齢階層別にみると、64歳以下は減少し続けていますが、65歳以上は増加傾向で推移しており、平成27年から令和2年までの5年間では3,685人、率にして14.0%の増加となっています。



資料：住民基本台帳（各年9月末日現在）

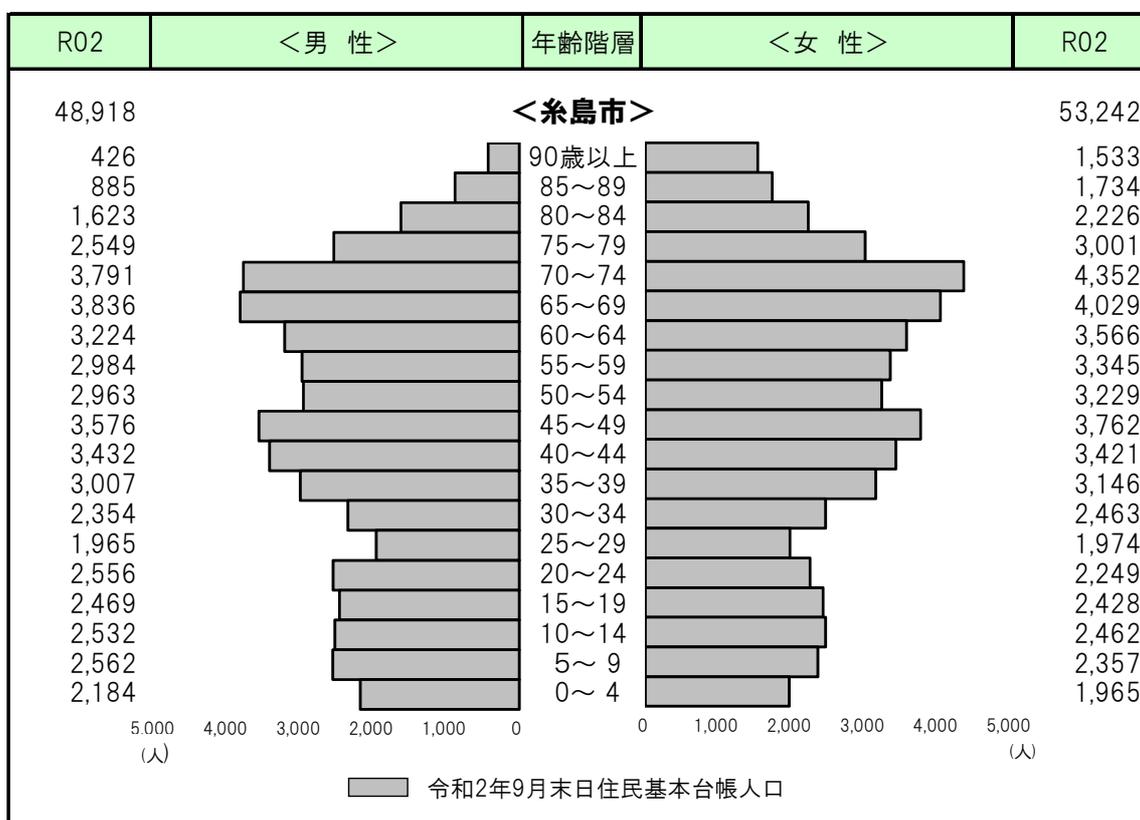
注：高齢化率（%）＝65歳以上人口÷総人口×100

(2) 人口ピラミッド

令和2年9月末日現在の住民基本台帳人口に基づく5歳階級別人口ピラミッドをみると、いわゆる団塊の世代の高齢化が進み、65歳から74歳までの前期高齢者にあたる年齢層が最も多くなっています。性別にみると、男性は65～69歳が3,836人で最も多く、次いで70～74歳の3,791人の順となっています。女性は70～74歳が4,352人で最も多く、次いで65～69歳の4,029人の順となっています。

これらの年齢層が今後は75歳以上の後期高齢者にあたる年齢層に移っていくことから、総人口の減少に対して高齢者が増え、高齢化率が上昇するとともに、後期高齢者の数が増えていくことが予想されます。

■ 5歳階級別人口ピラミッド

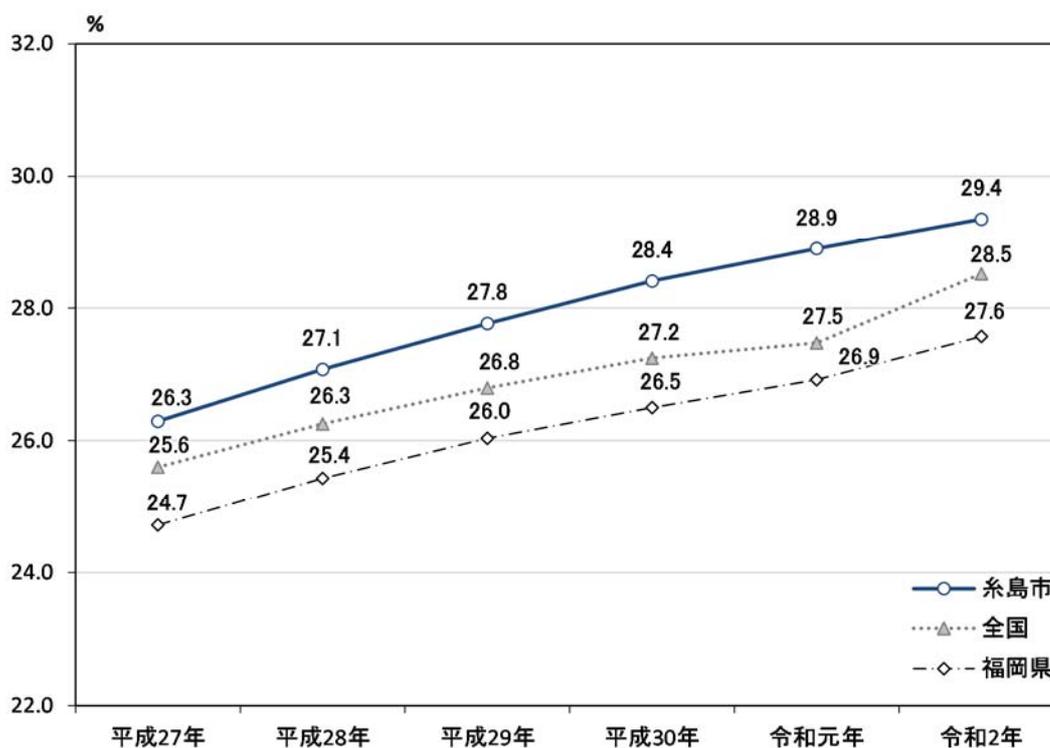


(3) 高齢化率の推移

住民基本台帳人口からみた高齢化率（総人口に占める65歳以上人口の割合）についてみると、本市は平成27年の26.3%から令和2年には29.4%と、5年間で3.1ポイント上昇しています。

本市の高齢化率は全国、福岡県と同様、増加傾向となっていますが、全国平均、福岡県平均よりも高い水準で推移しています。

■ 高齢化率の推移



注：高齢化率（%）＝65歳以上人口÷総人口×100

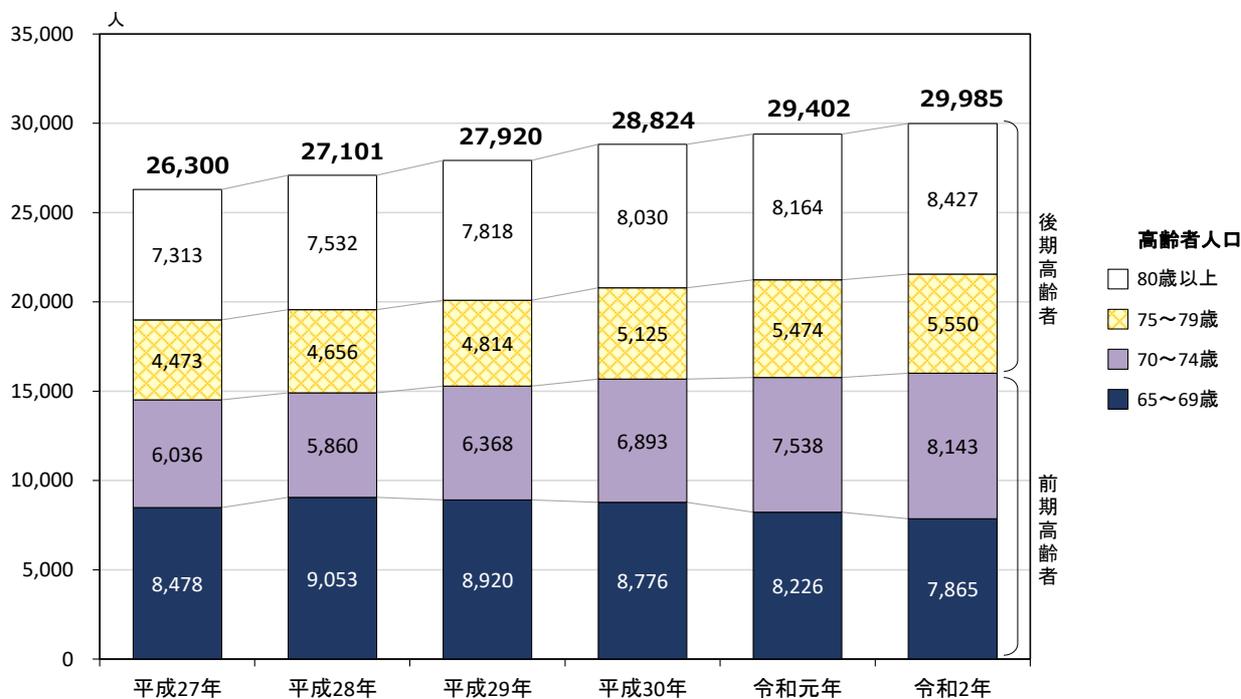
資料：糸島市は住民基本台帳（各年9月末日現在）

福岡県、全国は住民基本台帳人口・世帯数表（各年1月1日現在）

(4) 高齢者の人口構造

住民基本台帳人口に基づく65歳以上の高齢者人口について、前期高齢者(65～74歳)、後期高齢者(75歳以上)別にみると、前期高齢者はいわゆる団塊の世代が移行している影響を受けて増加傾向となっているものの、平成30年からは増加の勢いが緩やかになっています。令和元年は65～74歳が減少に転じ、70～74歳がその分だけ増加しています。一方、後期高齢者は前期高齢者と傾向が異なり、著しく増加しています。総人口に占める割合をみると、平成27年の前期高齢者は14.5%、後期高齢者は11.8%でしたが、令和2年は前期高齢者が15.7%、後期高齢者は13.7%となっています。

■ 高齢者の人口構造



	平成27年		平成28年		平成29年		平成30年		令和元年		令和2年		伸び率 (R02/H27)
	人数 (人)	構成比 (%)											
高齢者人口(65歳以上人口)	26,300	26.3	27,101	27.1	27,920	27.8	28,824	28.4	29,402	28.9	29,985	29.4	1.140
前期高齢者	14,514	14.5	14,913	14.9	15,288	15.2	15,669	15.4	15,764	15.5	16,008	15.7	1.103
65～69歳	8,478	8.5	9,053	9.0	8,920	8.9	8,776	8.6	8,226	8.1	7,865	7.7	0.928
70～74歳	6,036	6.0	5,860	5.9	6,368	6.3	6,893	6.8	7,538	7.4	8,143	8.0	1.349
後期高齢者	11,786	11.8	12,188	12.2	12,632	12.6	13,155	13.0	13,638	13.4	13,977	13.7	1.186
75～79歳	4,473	4.5	4,656	4.7	4,814	4.8	5,125	5.1	5,474	5.4	5,550	5.4	1.241
80歳以上	7,313	7.3	7,532	7.5	7,818	7.8	8,030	7.9	8,164	8.0	8,427	8.2	1.152
総人口	100,029	100	100,094	100	100,554	100	101,464	100	101,741	100	102,160	100	1.021

資料：住民基本台帳（各年9月末日現在）

(5) 日常生活圏域別にみた高齢者人口と高齢化率

本市では、おおむね中学校区を単位として、5つの日常生活圏域を設定しています。令和2年9月末日現在の住民基本台帳人口を圏域別にみると、65歳以上の高齢者人口が最も多いのは前原東圏域（7,890人）、次いで前原西圏域（7,294人）の順となっていますが、高齢化率は二丈圏域が36.8%で最も高く、次いで志摩圏域（34.1%）の順となっています。

■ 日常生活圏域別にみた高齢者人口及び高齢化率



圏域	小学校区	総人口	前期高齢者 (65~74歳)	後期高齢者 (75歳以上)	高齡者数 (65歳以上)	高齢化率
前原東	波多江	12,393	1,736	1,497	3,233	26.1
	東風	9,023	1,053	883	1,936	21.5
	怡土	7,110	1,535	1,186	2,721	38.3
	計	28,526	4,324	3,566	7,890	27.7
前原西	前原	11,899	1,607	1,343	2,950	24.8
	南風	8,711	923	812	1,735	19.9
	加布里	7,390	1,412	1,197	2,609	35.3
	計	28,000	3,942	3,352	7,294	26.1
前原	前原南	10,586	1,393	1,199	2,592	24.5
	長糸	1,966	357	344	701	35.7
	雷山	3,776	644	537	1,181	31.3
	計	16,328	2,394	2,080	4,474	27.4
二丈	一貴山	3,422	682	614	1,296	37.9
	深江	5,219	979	900	1,879	36.0
	福吉	3,991	735	739	1,474	36.9
	計	12,632	2,396	2,253	4,649	36.8
志摩	可也	9,092	1,466	1,286	2,752	30.3
	桜野	2,442	460	437	897	36.7
	引津	5,140	1,026	1,003	2,029	39.5
	計	16,674	2,952	2,726	5,678	34.1
総計		102,160	16,008	13,977	29,985	29.4

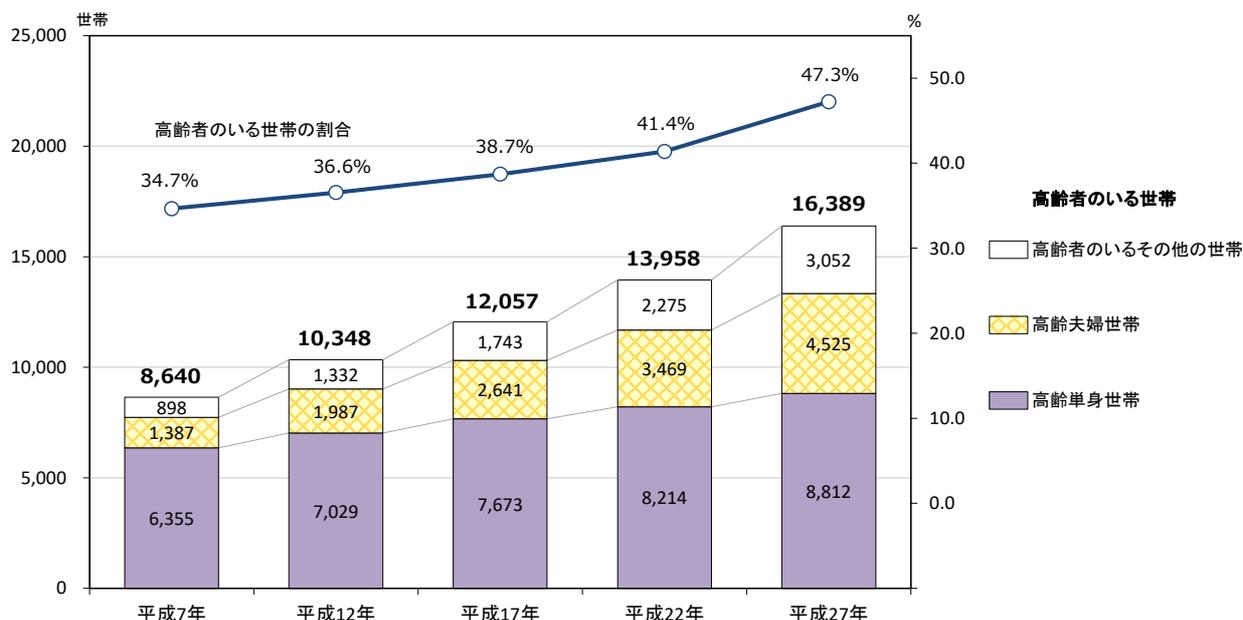
資料：住民基本台帳（令和2年9月末日現在）

(6) 高齢者のいる世帯の状況

高齢化の進展に伴い、高齢者のいる世帯数も増加傾向にあり、平成27年の高齢者のいる世帯数は16,389世帯で、一般世帯（総世帯から施設等の世帯を除いたもの）数に占める割合は47.3%となっています。

また、平成7年以降の推移をみると、高齢単身世帯と高齢夫婦世帯の増加が続いており、高齢者のみの世帯が著しく増えていることがわかります。

■ 高齢者のいる世帯の状況の推移



	平成7年		平成12年		平成17年		平成22年		平成27年	
	世帯数	構成比 (%)								
高齢者のいる世帯	8,640	34.7	10,348	36.6	12,057	38.7	13,958	41.4	16,389	47.3
高齢単身世帯	898	3.6	1,332	4.7	1,743	5.6	2,275	6.7	3,052	8.8
高齢夫婦世帯	1,387	5.6	1,987	7.0	2,641	8.5	3,469	10.3	4,525	13.0
高齢者のいるその他の世帯	6,355	25.5	7,029	24.8	7,673	24.6	8,214	24.4	8,812	25.4
一般世帯総数	24,920	100	28,310	100	31,145	100	33,720	100	34,685	100
高齢者のいる世帯の割合	34.7%		36.6%		38.7%		41.4%		47.3%	

注1：高齢単身世帯：65歳以上の人一人のみの一般世帯

注2：高齢夫婦世帯：夫65歳以上、妻60歳以上の夫婦1組のみの一般世帯

注3：構成比(%)は一般世帯数を100としたときの比率

資料：各年国勢調査

2. 高齢者の日常生活と社会参加の状況

(介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果より抜粋)

(1) 高齢者の日常生活について

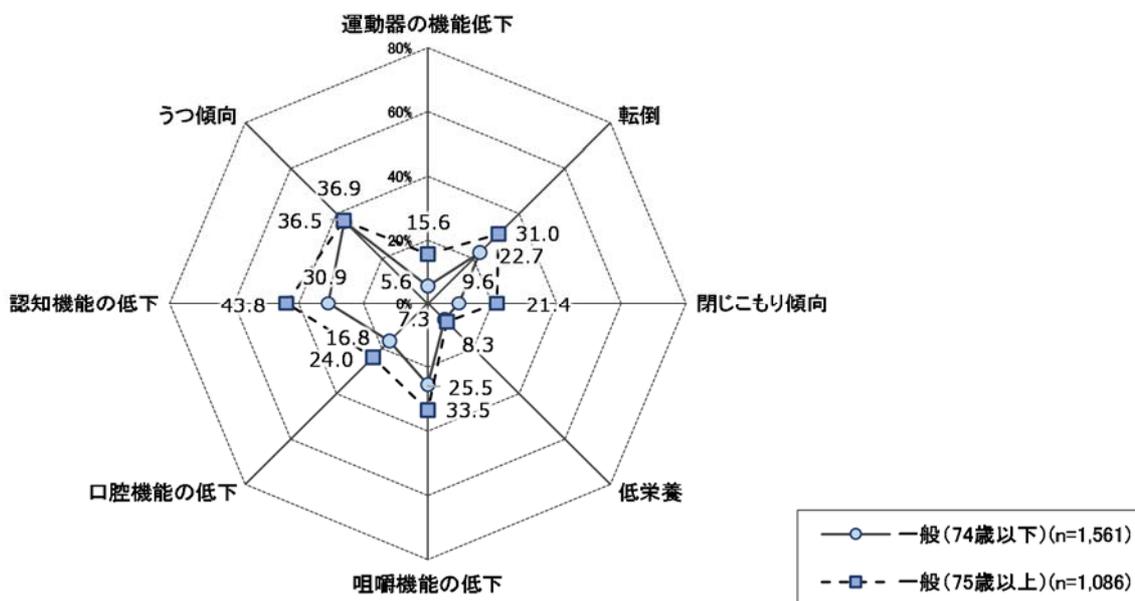
① 要介護状態になる危険性が高い者の割合

介護が必要になるきっかけは、脳血管疾患等の病気に限らず、外出自粛による閉じこもりや食欲低下による栄養不足等の生活の変化から、心身の機能が低下し、生活機能が低下するということがあります。

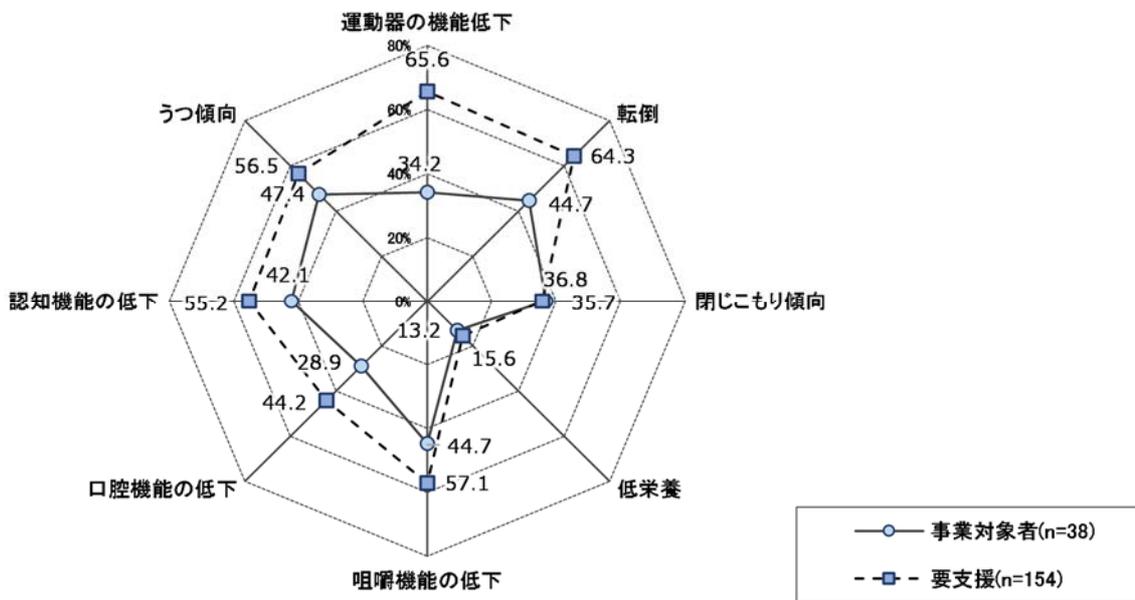
ニーズ調査の結果から算出される要介護状態になる危険因子の割合をみると、要介護認定等を受けていない一般高齢者は低栄養、うつ傾向を除いて75歳以上の人が74歳以下よりも高くなっています。特に、認知機能の低下と閉じこもり傾向、運動器の機能低下は75歳以上と74歳以下の差が10ポイント以上開いています。要介護認定を受けていない人も、加齢に伴い、心身の機能が低下しており、要介護状態になる危険性が高まっていることがわかります。

事業対象者はうつ傾向、要支援者は運動器の機能低下が、それぞれ最も高くなっています。うつ傾向や口腔機能の低下、認知機能の低下等が、運動機能の低下につながり、買物や掃除等の生活支援が必要な状態となっていることが考えられます。

■要介護状態になる危険因子の割合（一般高齢者）



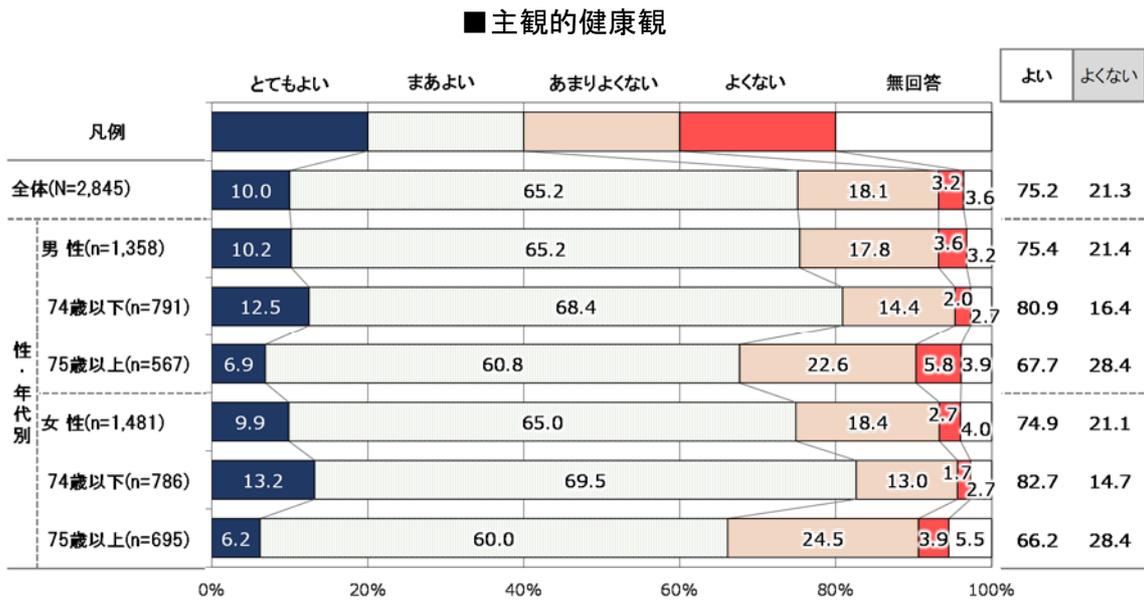
■要介護状態になる危険因子の割合（事業対象者・要支援）



② 主観的健康観

全体では、「まあよい」と回答した人の割合が65.2%で最も高く、「とてもよい」(10.0%)と合わせた『よい』は75.2%と、全体の7割以上を占めています。

性・年代別にみると、いずれも「まあよい」が最も高くなっていますが、『よい』の割合を比較したところ、男女いずれも74歳以下は8割を超えているのに対して、75歳以上は7割を下回っています。



注：『よい』は、「とてもよい」と「まあよい」を合わせた割合、
『よくない』は「あまりよくない」と「よくない」を合わせた割合

日常生活圏域ごとに性・年代別にみると、いずれの圏域も「よい」が半数を超えています。二丈圏域については、他圏域に比べ性・年代を問わず最も差が生じており、女性74歳以下は「よい」が91.5%に対して、男性75歳以上は58.4%と、性別による差が大きくなっているのが特徴的です。

■主観的健康観（日常生活圏域別・性・年代別）

単位:%		サンプル数	よい	よくない	無回答	
全体		2,845	75.2	21.3	3.6	
日常生活圏域・性・年代別	前原東圏域	男性:74歳以下	206	73.8	22.3	3.9
		男性:75歳以上	130	77.7	20.8	1.5
		女性:74歳以下	206	76.7	19.9	3.4
		女性:75歳以上	175	68.0	28.0	4.0
	前原西圏域	男性:74歳以下	205	82.5	16.1	1.5
		男性:75歳以上	160	66.9	28.8	4.4
		女性:74歳以下	208	84.6	13.0	2.4
		女性:75歳以上	169	60.4	33.7	5.9
	前原圏域	男性:74歳以下	111	82.0	13.5	4.5
		男性:75歳以上	82	61.0	32.9	6.1
		女性:74歳以下	131	84.7	12.3	3.1
		女性:75歳以上	109	66.0	27.6	6.4
	二丈圏域	男性:74歳以下	119	82.3	15.1	2.5
		男性:75歳以上	77	58.4	36.4	5.2
		女性:74歳以下	106	91.5	6.6	1.9
		女性:75歳以上	107	66.4	28.0	5.6
	志摩圏域	男性:74歳以下	150	86.6	12.0	1.3
		男性:75歳以上	118	68.6	28.0	3.4
		女性:74歳以下	135	80.0	17.8	2.2
		女性:75歳以上	135	71.1	23.0	5.9

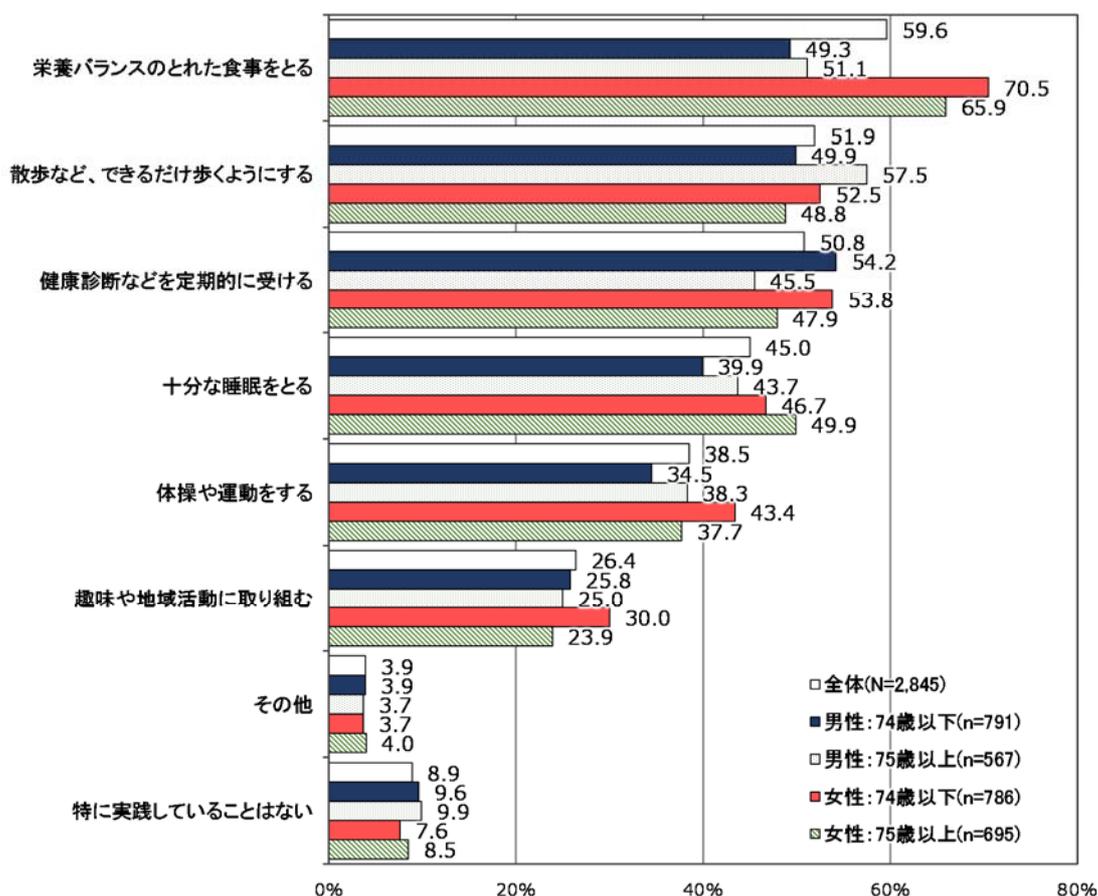
注：『よい』は、「とてもよい」と「まあよい」を合わせた割合、
『よくない』は「あまりよくない」と「よくない」を合わせた割合

③ 介護予防のために実践していること

全体では、「栄養バランスのとれた食事をとる」(59.6%)が最も高く、次いで「散歩など、できるだけ歩くようにする」(51.9%)、「健康診断などを定期的に受ける」(50.8%)の順となっています。

性・年代別にみると、75歳以上では、男性は「散歩など、できるだけ歩くようにする」(57.5%)が最も高く、次いで「栄養バランスのとれた食事をとる」(51.1%)、「健康診断などを定期的に受ける」(45.5%)の順となっています。一方、女性は「栄養バランスのとれた食事をとる」(65.9%)が最も高く、次いで「十分な睡眠をとる」(49.9%)、「散歩など、できるだけ歩くようにする」(48.8%)の順となっています。74歳以下では、男性は「健康診断などを定期的に受ける」(54.2%)が最も高く、次いで「散歩など、できるだけ歩くようにする」(49.9%)、「栄養バランスのとれた食事をとる」(49.3%)の順となっています。一方、女性は「栄養バランスのとれた食事をとる」(70.5%)が最も高く、次いで「健康診断などを定期的に受ける」(53.8%)、「散歩など、できるだけ歩くようにする」(52.5%)の順となっており、いずれの年代も性別によって介護予防のための実践内容に差がみられます。

■ 介護予防のために実践していること (性・年代別)



日常生活圏域ごとに性・年代別にみると、いずれの圏域も女性は「栄養バランスのとれた食事をする」の割合が高い結果となっています。一方、男性の場合、75歳以上については前原西圏域を除いて「散歩など、できるだけ歩くようにする」が最も高く、74歳以下では前原東圏域を除いて「健康診断などを定期的に受ける」が最も高い割合を占めており、年代によって若干違いが見受けられます。

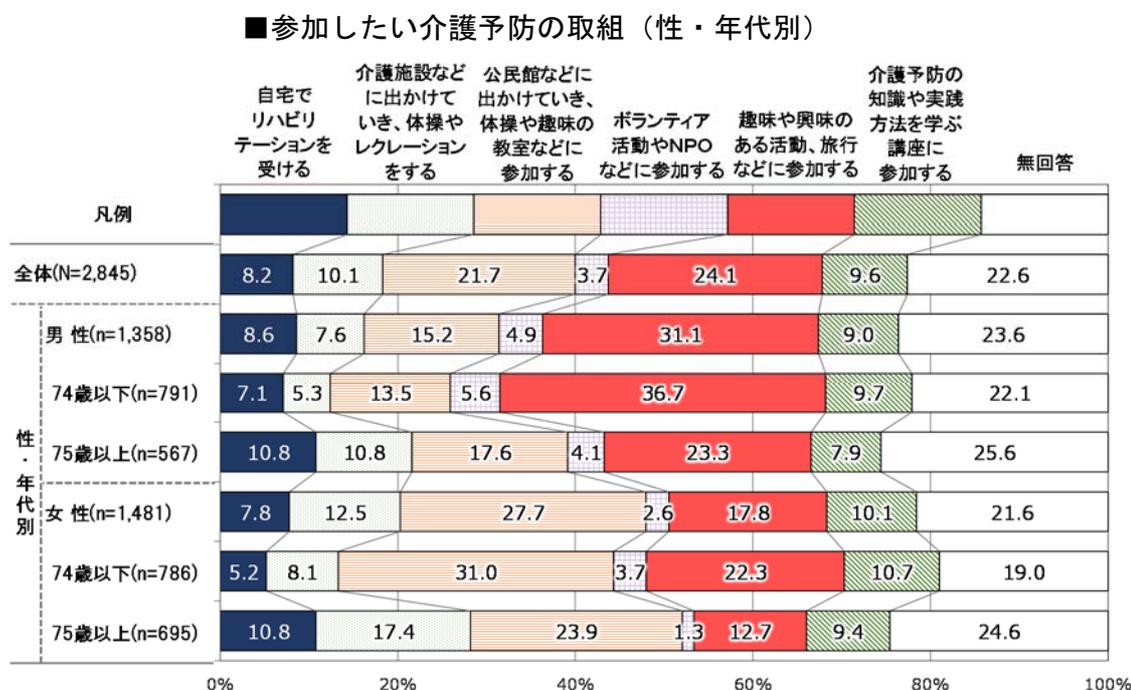
■介護予防のために実践していること（日常生活圏域別・性・年代別）

単位：%		サンプル数	栄養バランスのとれた食事をする	散歩など、できるだけ歩くようにする	健康的に診断などを定期的に受ける	十分な睡眠をとる	体操や運動をする	趣味や地域活動に取り組む	その他	特に実践していない	無回答	
全体		2,845	59.6	51.9	50.8	45.0	38.5	26.4	3.9	8.9	3.1	
日常生活圏域・性・年代別	前原東圏域	男性：74歳以下	206	44.7	45.1	43.7	31.6	27.7	20.4	2.4	11.7	5.8
		男性：75歳以上	130	44.6	57.7	53.8	42.3	34.6	27.7	4.6	10.0	3.8
	女性：74歳以下	206	72.8	53.4	53.9	46.6	40.8	29.6	2.4	7.8	1.5	
		女性：75歳以上	175	65.1	52.6	44.6	43.4	37.1	25.7	2.9	9.1	4.0
	前原西圏域	男性：74歳以下	205	57.1	56.6	60.0	45.9	45.9	25.9	5.4	6.8	2.4
		男性：75歳以上	160	57.5	55.6	47.5	48.8	40.6	25.6	3.1	6.3	3.1
		女性：74歳以下	208	71.2	57.7	51.9	47.1	47.1	27.9	4.3	6.7	1.4
		女性：75歳以上	169	71.6	45.0	50.9	49.7	32.5	20.7	4.1	7.1	5.3
	前原圏域	男性：74歳以下	111	48.6	52.3	53.2	39.6	32.4	29.7	3.6	9.9	4.5
		男性：75歳以上	82	57.3	62.2	34.1	42.7	39.0	31.7	1.2	7.3	-
		女性：74歳以下	131	64.9	54.2	54.2	51.1	45.0	31.3	2.3	8.4	0.8
		女性：75歳以上	109	65.1	50.5	48.6	56.0	39.4	23.9	6.4	11.0	4.6
	二丈圏域	男性：74歳以下	119	46.2	47.1	50.4	42.9	31.1	30.3	6.7	11.8	1.7
		男性：75歳以上	77	57.1	62.3	46.8	44.2	40.3	19.5	5.2	14.3	3.9
		女性：74歳以下	106	68.9	45.3	59.4	44.3	35.8	29.2	2.8	6.6	1.9
		女性：75歳以上	107	65.4	50.5	43.0	52.3	38.3	20.6	3.7	4.7	2.8
志摩圏域	男性：74歳以下	150	48.0	48.0	64.7	41.3	32.7	26.7	2.0	8.7	2.0	
	男性：75歳以上	118	41.5	53.4	40.7	39.0	37.3	20.3	4.2	13.6	5.9	
	女性：74歳以下	135	72.6	47.4	51.9	43.7	45.9	33.3	6.7	8.9	0.7	
	女性：75歳以上	135	60.7	45.9	51.9	51.9	43.0	28.1	3.7	10.4	5.2	

④ 参加したい介護予防の取組

全体では、「趣味や興味のある活動、旅行などに参加する」(24.1%)が最も高く、次いで「公民館などに出かけていき、体操や趣味の教室などに参加する」(21.7%)の順となっています。

性・年代別にみると、75歳以上では、男性は「趣味や興味のある活動、旅行などに参加する」(23.3%)が最も高く、次いで「介護施設などに出かけていき、体操やレクリエーションをする」(17.6%)の順となっています。一方、女性は「公民館などに出かけていき、体操や趣味の教室などに参加する」(23.9%)が最も高く、次いで「介護施設などに出かけていき、体操やレクリエーションをする」(17.4%)の順となっています。74歳以下では、男性は「趣味や興味のある活動、旅行などに参加する」(36.7%)が最も高く、次いで「公民館などに出かけていき、体操や趣味の教室などに参加する」(13.5%)の順となっています。一方、女性は「公民館などに出かけていき、体操や趣味の教室などに参加する」(31.0%)が最も高く、次いで「趣味や興味のある活動、旅行などに参加する」(22.3%)の順となっており、性別によって参加したい介護予防の取組に違いがみられます。



日常生活圏域ごとに性・年代別にみると、いずれの圏域も男性は年代を問わず「趣味や興味のある活動、旅行などに参加する」、女性は「公民館などに出かけていき、体操や趣味の教室などに参加する」の割合が最も高い結果となっています。

■参加したい介護予防の取組（日常生活圏域別・性・年代別）

単位：%		サンプル数	自宅でのリハビリを受ける	介護施設などに出かける	公民館などに参加する	ボランティアに参加する	趣味や旅行などのある活動	介護予防の知識や実践方法を学ぶ講座に参加する	無回答	
全体		2,845	8.2	10.1	21.7	3.7	24.1	9.6	22.6	
日常生活圏域・性・年代別	前原東圏域	男性：74歳以下	206	5.3	5.8	13.1	7.3	37.4	8.7	22.3
		男性：75歳以上	130	6.9	11.5	16.9	4.6	26.2	6.2	27.7
		女性：74歳以下	206	5.8	6.8	31.6	2.9	25.7	9.7	17.5
		女性：75歳以上	175	10.9	17.7	25.1	0.6	15.4	6.9	23.4
	前原西圏域	男性：74歳以下	205	9.8	5.9	14.6	2.4	36.1	11.2	20.0
		男性：75歳以上	160	13.1	5.6	21.3	2.5	23.1	12.5	21.9
		女性：74歳以下	208	3.4	9.1	27.9	3.8	22.1	12.5	21.2
		女性：75歳以上	169	12.4	16.0	18.3	0.6	8.3	11.2	33.1
	前原圏域	男性：74歳以下	111	6.3	5.4	15.3	5.4	31.5	9.0	27.0
		男性：75歳以上	82	9.8	15.9	15.9	4.9	19.5	3.7	30.5
		女性：74歳以下	131	6.1	9.2	29.8	4.6	19.1	14.5	16.8
		女性：75歳以上	109	10.1	17.4	18.3	3.7	14.7	11.0	24.8
	二丈圏域	男性：74歳以下	119	10.1	4.2	9.2	6.7	39.5	10.1	20.2
		男性：75歳以上	77	7.8	10.4	16.9	3.9	26.0	10.4	24.7
		女性：74歳以下	106	3.8	10.4	35.8	2.8	17.0	10.4	19.8
		女性：75歳以上	107	12.1	15.9	29.9	1.9	14.0	9.3	16.8
志摩圏域	男性：74歳以下	150	4.0	4.7	14.7	6.7	38.0	9.3	22.7	
	男性：75歳以上	118	14.4	13.6	15.3	5.1	21.2	5.1	25.4	
	女性：74歳以下	135	7.4	5.9	32.6	4.4	24.4	5.9	19.3	
	女性：75歳以上	135	8.1	20.0	28.9	0.7	11.9	8.9	21.5	

⑤ 地域包括支援センターの認知度

全体では、『知っている』人は76.4%と、全体の7割を超えていますが、「知っているが、利用したことはない」と回答した人の割合が43.0%で最も高く、「知っており、利用したことがある」と回答した人は14.0%となっています。性・年代別にみると、『知っている』人の割合は年代を問わず男性よりも女性の方が上回っており、特に74歳以下は性別による認知度の差が大きくなっています。なお、女性75歳以上は「知っており、利用したことがある」(21.9%)が、他の性・年代に比べて高くなっています。

日常生活圏域別にみると、『知っている』人はいずれの圏域も7割を超えています。なお、「知っており、利用したことがある」人の割合は前原圏域(16.6%)が最も高くなっています。

■地域包括支援センターの認知度（性・年代別、日常生活圏域別）

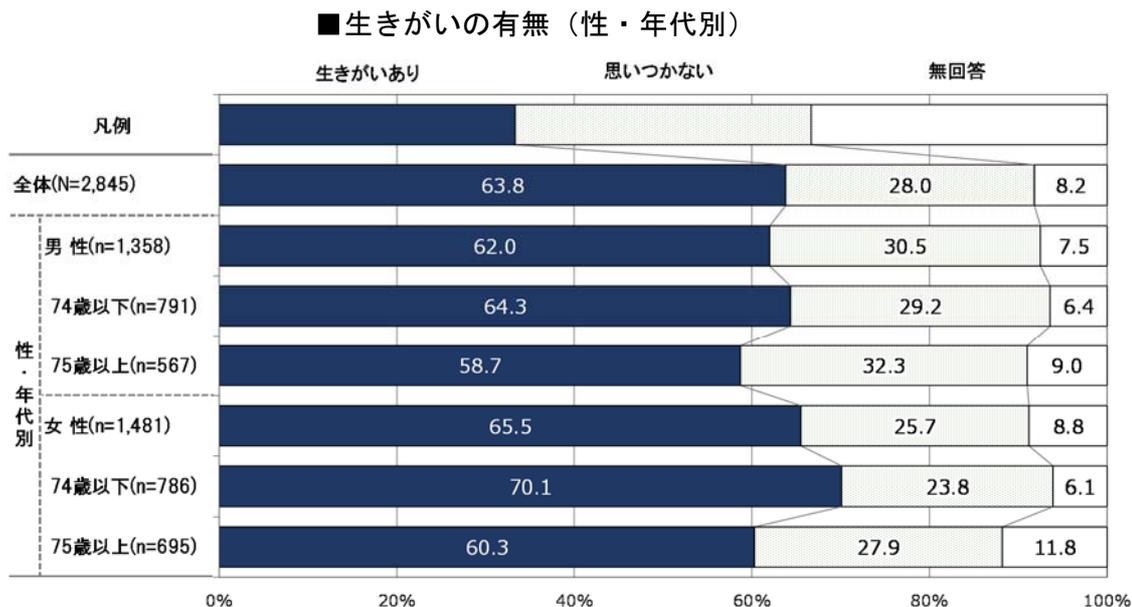
単位:%		サンプル数	知ったこと があり、利用	知ったこと はないが、利	名前 は聞いたこと がある	知らない	無回答	知っている
全体		2,845	14.0	43.0	19.4	20.1	3.6	76.4
性・年代別	男性	1,358	11.0	42.0	19.1	24.4	3.5	72.1
	74歳以下	791	9.4	39.4	20.0	28.8	2.4	68.8
	75歳以上	567	13.4	45.7	17.8	18.2	4.9	76.9
	女性	1,481	16.7	43.8	19.7	16.1	3.6	80.2
	74歳以下	786	12.2	48.3	21.4	16.4	1.7	81.9
75歳以上	695	21.9	38.7	17.8	15.7	5.9	78.4	
日常生活圏域別	前原東圏域	717	13.9	40.9	18.1	23.3	3.8	72.9
	前原西圏域	742	14.2	41.2	21.8	19.7	3.1	77.2
	前原圏域	433	16.6	43.9	19.4	16.6	3.5	79.9
	二丈圏域	409	13.7	48.9	15.9	18.1	3.4	78.5
	志摩圏域	538	12.1	42.9	20.4	20.4	4.1	75.4

注：『知っている』は「知っており、利用したことがある」、「知っているが、利用したことはない」、「名前は聞いたことがある」を合わせた割合

(2) 社会参加の状況

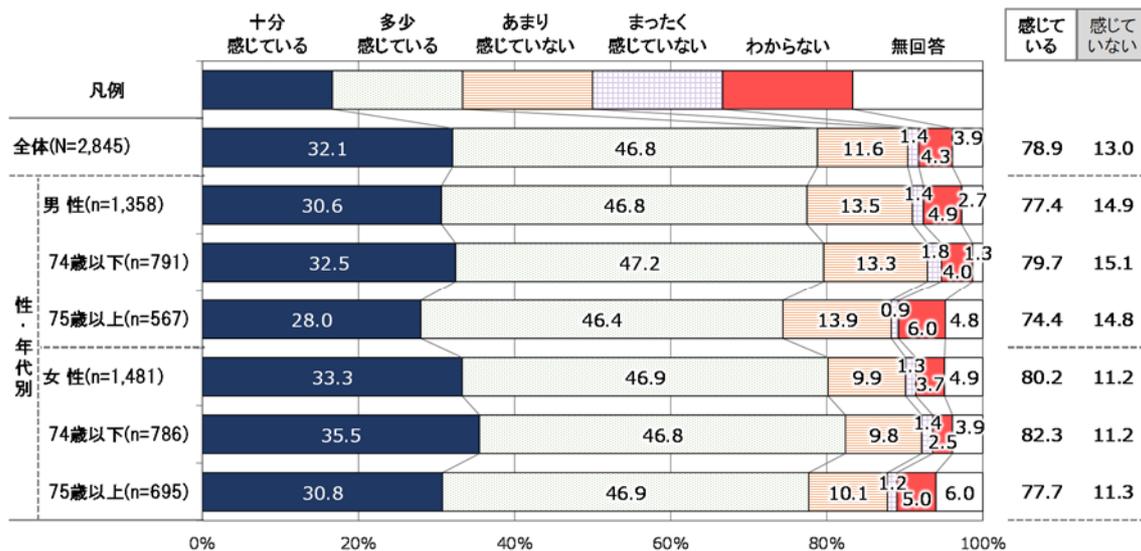
① 生きがいについて

生きがいがあるか尋ねたところ、全体では、「生きがいあり」と回答した人の割合は63.8%と、6割を超えています。性・年代別にみると、「生きがいあり」の割合が最も高いのは女性74歳以下の70.1%に対して、最も低いのは男性75歳以上の58.7%と、性・年代によって多少の違いが見られます。



生きがい（喜びや楽しみ）を感じている程度について、全体では、「多少感じている」と回答した人の割合が46.8%で最も高く、「十分感じている」（32.1%）と合わせた『感じている』の割合は78.9%と、8割近くに達しています。なお、性・年代にみても、特に大きな傾向の違いは見られません。

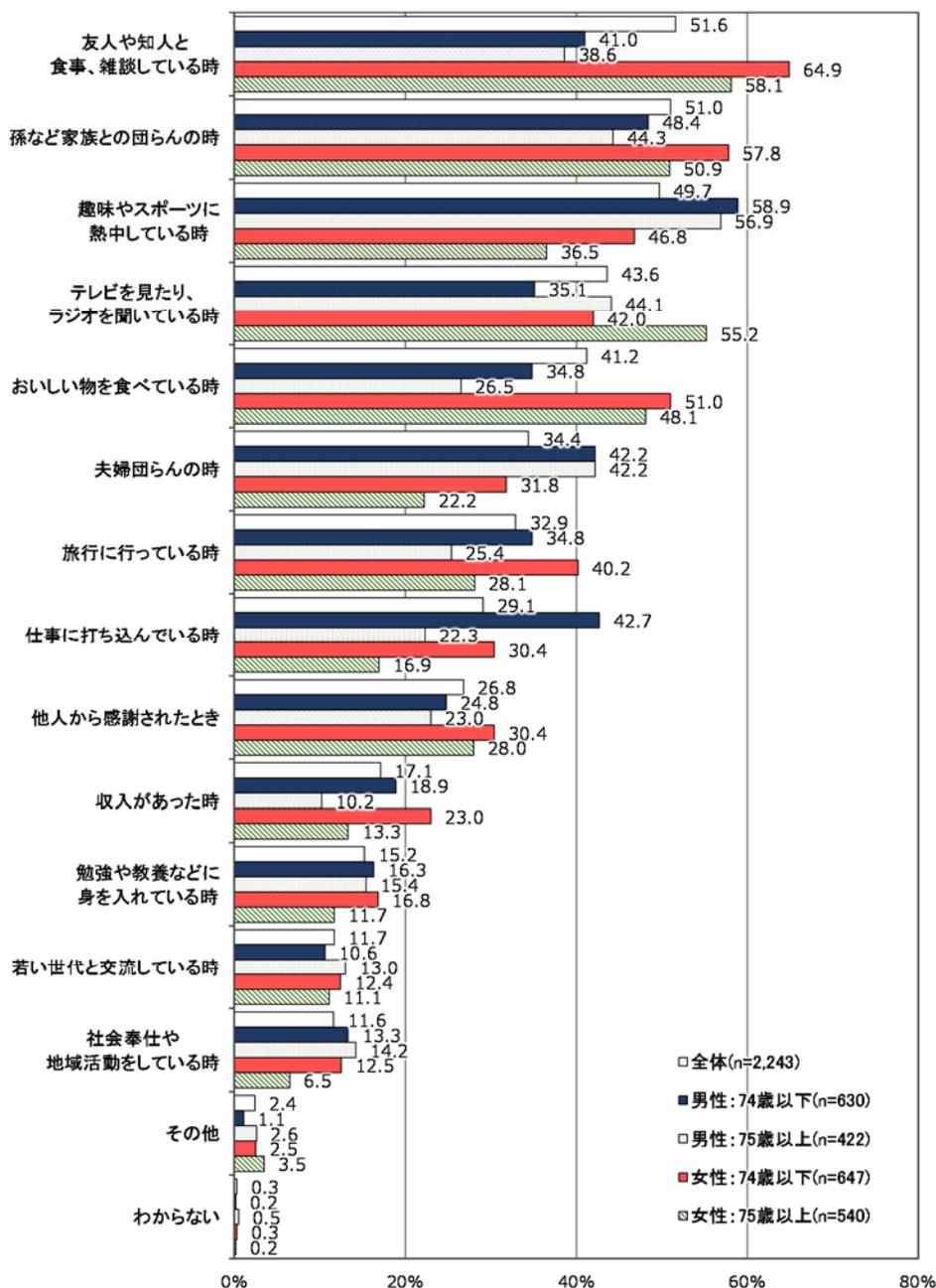
■生きがい（喜びや楽しみ）を感じている程度（性・年代別）



注：『感じている』は、「十分感じている」と「多少感じている」を合わせた割合、
『感じている』は「あまり感じている」と「まったく感じている」を合わせた割合

生きがい（喜びや楽しみ）を感じている時について、全体では、「友人や知人と食事、雑談している時」（51.6%）が最も高く、次いで「孫など家族との団らんの時」（51.0%）、「趣味やスポーツに熱中している時」（49.7%）の順となっています。性・年代別にみると、男性は「趣味やスポーツに熱中している時」が最も高く、次いで「孫など家族との団らんの時」、「テレビを見たり、ラジオを聞いている時」などが続いています。一方、女性は「友人や知人と食事、雑談している時」が最も高く、次いで「テレビを見たり、ラジオを聞いている時」、「孫など家族との団らんの時」、「おいしい物を食べている時」などが続いています。

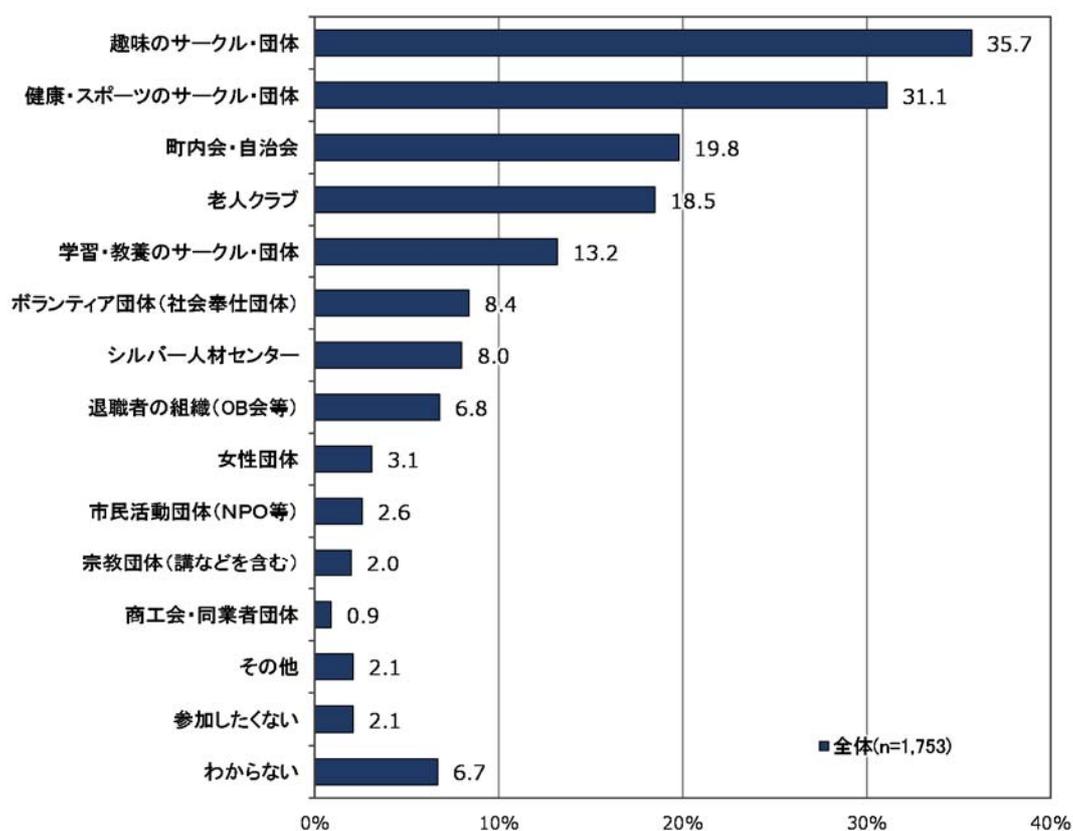
■生きがい（喜びや楽しみ）を感じている時（性・年代別）



自主的に行われている活動について「活動・参加したいものはない」以外の回答をした人に、参加したい団体や組織について尋ねたところ、全体では、「趣味のサークル・団体」(35.7%)が最も高く、次いで「健康・スポーツのサークル・団体」(31.1%)、「町内会・自治会」(19.8%)の順となっています。

性・年代別にみると、いずれも「趣味のサークル・団体」と「健康・スポーツのサークル・団体」の割合が高くなっていますが、女性74歳以下は「趣味のサークル・団体」(40.7%)の割合が他に比べて高くなっています。

■参加したい団体や組織



日常生活圏域別にみると、前原圏域を除き、「趣味のサークル団体」の割合が最も高く、次いで「健康・スポーツのサークル・団体」の順となっています。

■参加したい団体や組織（性・年代別、日常生活圏域別）

単位：%		サンプル数	趣味のサークル・団体	健康・スポーツのサークル・団体	町内会・自治会	老人クラブ	学習・教養のサークル・団体	ボランティア団体（社会奉仕団体）	シルバー人材セン	退職者の組織（OB会等）	女性団体	市民活動団体（NPO等）	宗教団体（講などを含む）	商工会・同業者団体	その他	参加したくない	わからない	無回答
全体		1,753	35.7	31.1	19.8	18.5	13.2	8.4	8.0	6.8	3.1	2.6	2.0	0.9	2.1	2.1	6.7	19.9
性・年代別	男性	898	33.9	30.5	23.6	19.2	11.6	8.9	10.5	10.4	0.3	2.9	1.9	1.4	2.2	1.7	5.7	19.5
	74歳以下	546	35.0	29.7	22.5	11.5	11.0	9.2	12.1	10.8	-	4.2	1.6	1.6	2.0	2.0	6.6	19.0
	75歳以上	352	32.1	31.8	25.3	31.0	12.5	8.5	8.0	9.7	0.9	0.9	2.3	1.1	2.6	1.1	4.3	20.2
	女性	851	37.5	31.7	15.7	18.0	15.0	7.9	5.5	3.1	6.1	2.4	2.1	0.2	1.9	2.6	7.8	20.2
	74歳以下	514	40.7	36.0	15.2	10.5	17.5	8.6	7.0	2.9	7.0	3.1	1.4	0.2	1.8	2.5	8.8	18.9
75歳以上	337	32.6	25.2	16.6	29.4	11.3	6.8	3.3	3.3	4.7	1.2	3.3	0.3	2.1	2.7	6.2	22.3	
日常生活圏域別	前原東圏域	440	33.6	29.8	15.9	17.3	13.4	7.7	6.1	5.2	3.9	2.7	0.7	0.5	3.6	2.3	6.8	20.7
	前原西圏域	431	38.1	32.0	18.6	14.6	13.9	7.9	9.3	8.6	2.1	2.8	2.6	0.9	1.6	2.6	7.0	21.3
	前原圏域	257	35.8	36.6	22.2	19.5	14.4	7.8	8.9	8.2	4.3	1.9	1.9	1.6	1.9	1.2	7.4	17.5
	二丈圏域	263	36.9	29.3	24.3	19.0	11.8	9.5	11.4	6.5	4.2	2.3	1.1	0.4	1.5	1.5	6.5	16.0
	志摩圏域	358	34.1	29.1	20.9	24.0	12.6	9.5	5.9	5.9	2.0	3.1	3.6	1.1	1.1	2.5	5.9	21.5

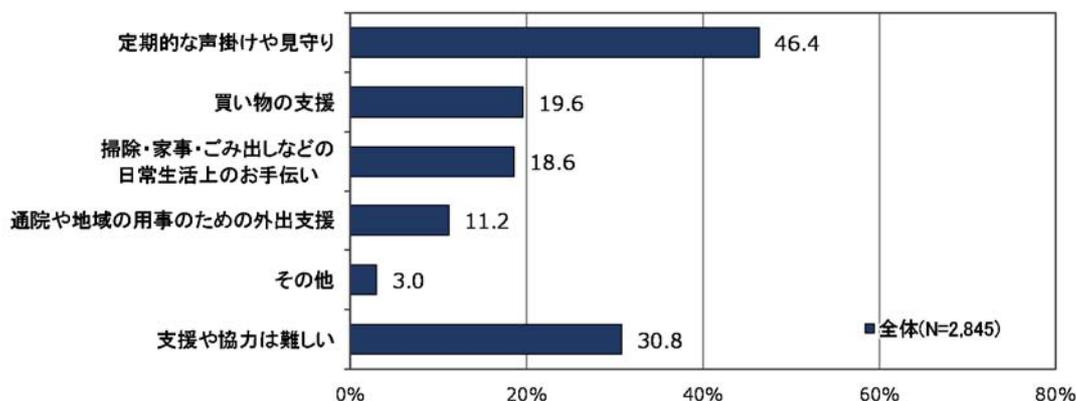
② 高齢者にやさしいまちづくり

全体では、「定期的な声掛けや見守り」(46.4%)が最も高く、次いで「買い物の支援」(19.6%)の順となっています。なお、「支援や協力は難しい」と回答した人は30.8%となっています。

性・年代別にみると、男性は年代を問わず「定期的な声掛けや見守り」が最も高くなっています。一方、女性の場合も「定期的な声掛けや見守り」が最も高いものの、75歳以上は「支援や協力は難しい」(44.0%)の方が上回っています。74歳以下では「定期的な声掛けや見守り」(57.4%)が最も高く、次いで「買い物の支援」(26.8%)、「掃除・家事・ごみ出しなどの日常生活上のお手伝い」(25.6%)となっています。

日常生活圏域別にみると、いずれの圏域も「定期的な声掛けや見守り」が最も高くなっています。

■あなたができる地域支援や協力



単位: %		サンプル数	定期的な声掛けや見守り	買い物の支援	活出しのお手伝い	掃除・家事・ごみ出しなどの日常生活上のお手伝い	通院や地域の外出支援	その他	支援や協力は難しい	無回答
全体		2,845	46.4	19.6	18.6	11.2	3.0	30.8	9.5	
性・年代別	男性	1,358	47.1	19.6	16.7	16.3	2.8	29.0	8.1	
	74歳以下	791	52.2	22.8	17.8	18.7	2.0	25.2	5.7	
	75歳以上	567	40.0	15.2	15.2	12.9	3.9	34.4	11.5	
	女性	1,481	45.8	19.6	20.4	6.5	3.2	32.4	10.7	
	74歳以下	786	57.4	26.8	25.6	8.9	2.8	22.1	7.6	
75歳以上	695	32.7	11.5	14.5	3.9	3.6	44.0	14.2		
日常生活圏域別	前原東圏域	717	43.2	18.4	19.0	9.3	2.9	30.3	10.3	
	前原西圏域	742	46.2	18.3	18.1	10.4	3.2	32.9	8.9	
	前原圏域	433	46.4	20.8	18.7	11.8	3.5	34.6	8.3	
	二丈圏域	409	47.2	22.0	19.6	12.5	2.9	28.1	9.3	
	志摩圏域	538	50.4	20.3	18.2	13.4	2.4	27.5	10.2	

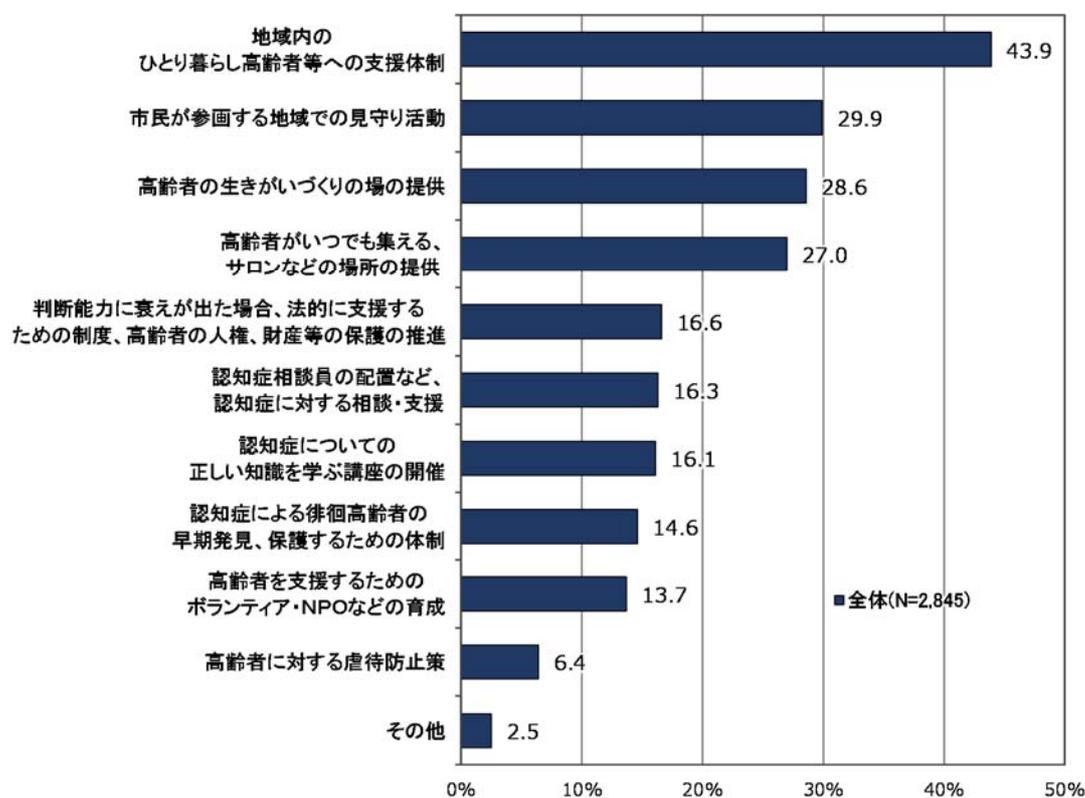
③ 高齢化に対応するために望まれる活動・体制

全体では、「地域内のひとり暮らし高齢者等への支援体制」(43.9%)が最も高く、次いで「市民が参画する地域での見守り活動」(29.9%)、「高齢者の生きがいがづくりの場の提供」(28.6%)、「高齢者がいつでも集える、サロンなどの場所の提供」(27.0%)などの順となっています。

性・年代別にみると、男女年代を問わず「地域内のひとり暮らし高齢者等への支援体制」が最も高い割合を占めていますが、それ以降は性・年代によってさまざまな回答内容となっています。なお、「地域内のひとり暮らし高齢者等への支援体制」、「市民が参画する地域での見守り活動」、「高齢者の生きがいがづくりの場の提供」は男女いずれも74歳以下の方が75歳以上よりも割合が高くなっています。

日常生活圏域別にみると、いずれの圏域も「地域内のひとり暮らし高齢者等への支援体制」が最も高い結果となっています。

■ 高齢化に対応するために必要な活動・体制の充実



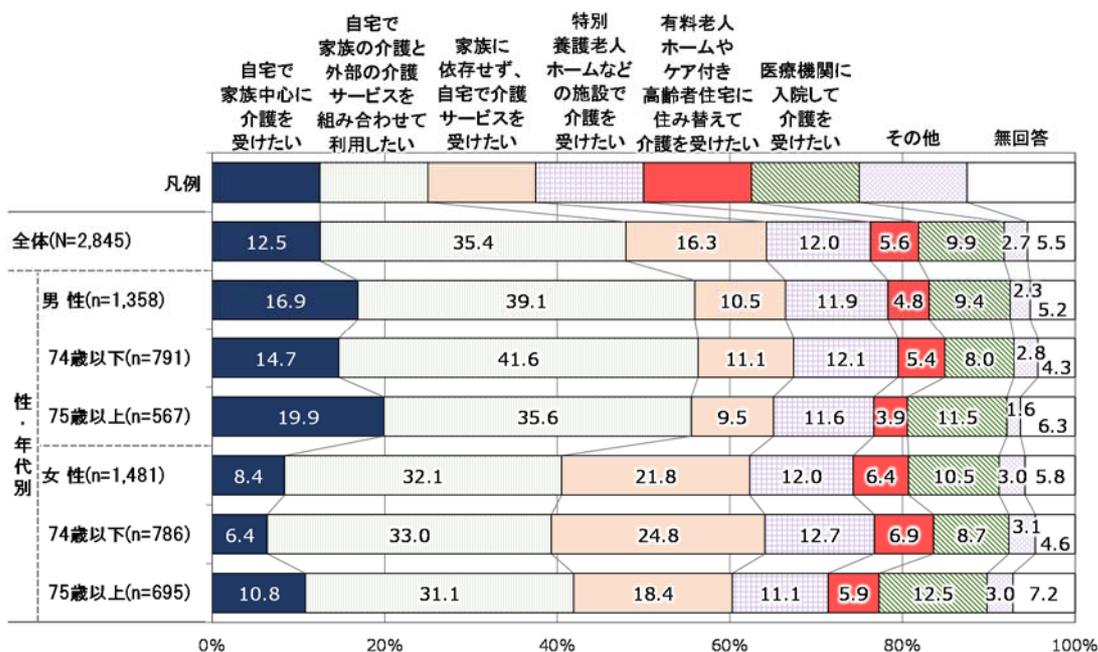
■高齢化に対応するために必要な活動・体制の充実（性・年代別、日常生活圏域別）

単位：%		サンプル数	地域内のひとり暮らし高齢者等への支援体制	市民が参画する地域での見守り活動	高齢者の生きがいづくりの場の提供	高齢者がいつでも集える、サロンなどの場所の提供	判断能力に衰えが出た場合、法的に支援するための制度、高齢者の人権、財産等の保護の推進	認知症相談員の配置など、認知症に対する相談・支援	認知症についての正しい知識を学ぶ講座の開催	認知症による徘徊高齢者の早期発見、保護するための体制	高齢者を支援するためのボランテニア・NPOなどの育成	高齢者に対する虐待防止策	その他	無回答
全体		2,845	43.9	29.9	28.6	27.0	16.6	16.3	16.1	14.6	13.7	6.4	2.5	10.1
性・年代別	男性	1,358	45.9	32.0	31.6	21.2	19.2	16.7	15.0	15.6	14.3	6.6	2.2	8.6
	74歳以下	791	48.5	34.3	37.5	21.2	19.6	15.9	13.3	14.7	15.2	5.2	2.0	6.1
	75歳以上	567	42.2	28.7	23.3	21.2	18.7	17.8	17.5	16.9	13.1	8.5	2.5	12.2
	女性	1,481	42.0	28.0	25.9	32.3	14.0	16.0	17.1	13.8	13.2	6.3	2.6	11.4
	74歳以下	786	48.6	30.0	34.4	33.5	14.0	17.2	16.0	13.2	14.0	5.6	2.2	7.8
	75歳以上	695	34.5	25.8	16.4	31.1	14.1	14.7	18.3	14.4	12.4	7.2	3.2	15.5
日常生活圏域別	前原東圏域	717	44.8	26.4	29.0	27.6	16.0	16.9	15.6	14.6	13.1	7.7	2.8	10.7
	前原西圏域	742	45.8	30.3	26.7	26.0	18.7	17.3	14.7	14.4	15.9	5.9	2.4	9.2
	前原圏域	433	40.9	31.9	25.4	25.6	18.0	18.7	18.7	13.2	14.1	5.1	2.3	11.1
	二丈圏域	409	42.5	31.3	32.3	28.6	13.4	14.4	18.1	15.4	10.5	6.1	2.2	10.0
	志摩圏域	538	43.3	31.4	30.7	27.5	15.2	13.9	15.1	15.6	13.8	6.9	2.2	9.7

④ 介護が必要になったときに希望する生活形態

全体では、「自宅で家族の介護と外部の介護サービスを組み合わせて利用したい」(35.4%)が最も高く、次いで「家族に依存せず、自宅で介護サービスを受けたい」(16.3%)、「自宅で家族中心に介護を受けたい」(12.5%)、「特別養護老人ホームなどの施設で介護を受けたい」(12.0%)などの順となっています。性・年代別にみると、男性は年代を問わず「自宅で家族の介護と外部の介護サービスを組み合わせて利用したい」が最も高く、以下、「自宅で家族中心に介護を受けたい」、「特別養護老人ホームなどの施設で介護を受けたい」と続いています。一方、女性は「自宅で家族の介護と外部の介護サービスを組み合わせて利用したい」が最も高くなっていますが、次いで「家族に依存せず、自宅で介護サービスを受けたい」、「特別養護老人ホームなどの施設で介護を受けたい」の順で、いずれも「自宅で家族中心に介護を受けたい」よりも割合が上回っており、性別による考え方の違いが見られます。

■ 介護が必要になったときに希望する生活形態



日常生活圏域別にみると、いずれの圏域も「自宅で家族の介護と外部の介護サービスを組み合わせて利用したい」の割合が高い結果となっていますが、それ以下は圏域によってさまざまです。女性は年代を問わず「家族に依存せず、自宅で介護サービスを受けたい」が次いで高くなっています。一方、男性は74歳以下の前原東圏域を除き、「自宅で家族中心に介護を受けたい」が続いています。

■介護が必要になったときに希望する生活形態（日常生活圏域別・性・年代別）

単位：%		サンプル数	を自宅で家族中心に介護を受けたい	み部の介護サービスを利用したい	自宅で家族の介護と外部	たいてい介護サービスを受けたい	家族に依存せず、自宅	たのしい施設で老人ホームを受けたい	特別養護老人ホームを受けたい	替えて介護を受けたい	付き高齢者住宅に住みたい	有料老人ホームやケア	医療機関に入院して介護を受けたい	その他	無回答	
全体		2,845	12.5	35.4	16.3	12.0	5.6	9.9	2.7	5.5						
日常生活圏域・性・年代別	前原東圏域	男性：74歳以下	206	10.7	41.7	12.1	10.7	6.8	8.3	2.9	6.8					
		男性：75歳以上	130	18.5	42.3	10.8	7.7	6.2	6.2	2.3	6.2					
		女性：74歳以下	206	7.3	28.6	25.7	18.0	5.3	7.3	3.9	3.9					
		女性：75歳以上	175	9.7	34.3	18.3	9.7	5.1	12.6	4.6	5.7					
	前原西圏域	男性：74歳以下	205	14.1	40.5	11.7	12.7	5.4	8.8	3.9	2.9					
		男性：75歳以上	160	20.6	33.8	9.4	14.4	5.0	10.6	1.3	5.0					
		女性：74歳以下	208	6.3	33.2	23.6	9.6	8.7	10.1	3.4	5.3					
		女性：75歳以上	169	13.0	24.9	20.1	10.1	5.3	15.4	2.4	8.9					
	前原圏域	男性：74歳以下	111	18.0	44.1	6.3	10.8	3.6	8.1	2.7	6.3					
		男性：75歳以上	82	24.4	31.7	13.4	12.2	-	13.4	-	4.9					
		女性：74歳以下	131	5.3	41.2	22.1	11.5	6.1	6.9	2.3	4.6					
		女性：75歳以上	109	12.8	27.5	19.3	12.8	8.3	12.8	1.8	4.6					
	二丈圏域	男性：74歳以下	119	16.8	37.8	13.4	15.1	3.4	10.1	1.7	1.7					
		男性：75歳以上	77	20.8	33.8	6.5	14.3	5.2	10.4	2.6	6.5					
		女性：74歳以下	106	5.7	31.1	27.4	15.1	6.6	7.5	2.8	3.8					
		女性：75歳以上	107	14.0	29.0	17.8	11.2	5.6	11.2	2.8	8.4					
志摩圏域	男性：74歳以下	150	16.7	44.0	10.7	12.0	6.7	4.7	2.0	3.3						
	男性：75歳以上	118	16.9	34.7	7.6	10.2	1.7	17.8	1.7	9.3						
	女性：74歳以下	135	6.7	32.6	25.9	8.9	7.4	11.1	2.2	5.2						
	女性：75歳以上	135	5.2	39.3	16.3	12.6	5.9	9.6	3.0	8.1						

3. 計画推進における課題

(1) 介護保険制度を基盤とした地域共生社会づくり

個人や世帯を取り巻く環境の変化により、市民の暮らしや価値観が多様化し、地域や社会とのつながりが希薄化しています。そのため、地域社会において、多様なつながりが生まれやすくするための環境整備が必要になっています。

本市においては、センターを中心に、これまで進めてきた地域包括ケアシステムの推進に向けた取組をさらに発展させ、地域やコミュニティにおける支え合う関係性の育成や社会参加への支援を行う必要性が高まっています。

(2) 介護需要のさらなる増加及び多様化

超高齢社会の進行に伴い、介護サービスへの需要は増大することが見込まれています。また、介護が必要になったときに希望する生活形態等、介護サービスに係る市民ニーズは変化しています。

令和7(2025)年、令和22(2040)年を見据え、介護予防や重度化防止の取組を進め、介護需要の急速な増加を抑制するとともに、施設整備や事業所設置について、事業の持続可能性を含めた検討が必要になっています。

(3) 現役世代の減少に伴う担い手の減少

今後、生産年齢人口の減少に伴い、介護人材不足はますます深刻になっていくことが予測されます。介護人材不足への対応については、現場の意見を聞き、事務手続きの簡素化やICTの活用等、実情に応じた取組を進める必要があります。

また、介護現場で元気高齢者が活躍できる場を拡充する等、介護現場を支援するとともに、高齢者の介護予防、学び、収入にもつながる環境整備が求められています。